


海外派遣研究助成事業による研究の成果

| | |
|---|---|
| 研究者氏名 | 結束 貴臣  |
| 所属機関 | 横浜市立大学附属病院 緩和ケアセンター |
| <ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 | 13th Asia Pacific Hospice Conference (第13回アジア太平洋ホスピス会議) |
| 渡航期間 | 自 2019年8月1日 至 2019年8月4日 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 | オピオイド誘発性便秘に対する各種便秘薬治療の前向き観察研究発表 |
| <p>研究成果 (要約: 800字)</p> <p>がん患者におけるオピオイド誘発性便秘 (OIC) に対する様々な便秘薬の効果と副作用に前向き観察研究を行った。その中でナルデメジンは末梢性μオピオイド受容体阻害薬という新規の機序によるOIC治療薬であり、世界に先駆けて日本で承認された。ナルデメジンは、既存の緩下薬を中心とした治療と比較してもより効果的にOICを改善させた。現在、実臨床では様々な便秘治療薬が保険収載されているが、OICに対する効果を比較検討した研究はなく、本前向き試験は世界で初めての観察研究である。APHCは緩和医療領域で最も影響力のある学会であり、本研究は採択率60%弱の選考を経て採択された。本研究はナルデメジンの製造販売会社等による支援は受けずに行っているため、本研究助成金を申請することで発表を行い、がん患者のQOL向上に寄与する知見を得た。会場からの質問ではナルデメジンは従来の便秘治療薬より高額であるため今後の研究としては医療経済の視点も加えて研究を進めていくことが重要であると助言いただいた。</p> <p>また他のセッションでは、ライフレビューはディグニティーセラピー、グリーフケアについて最新の話題が含まれており日本における位置づけが定まっていない状況下で今後の研究を進める上でヒントを得ることができた。</p> | |